



KOBE 里山生物多様性戦略

里山とは

「里山」は、人々が農業を営む中で、田畑、水路やため池、小川、草原を管理し、また、森の木を木材や燃料として利用するなど、昔から持続可能な形で利用され、維持され、守られてきた自然。様々な環境がモザイク状に存在することから、それぞれの環境を好む様々な動植物が暮らす、生物多様性が豊かな場所になっている。

里山の現状と課題

社会経済の変化によって、人の暮らしの中で里山の利用が減少し、耕作放棄地や手入れが行き届かない森林の増加、藪や竹林の拡大、水路やため池の管理不足、外来生物の侵入等により、かつて普通に見られたニホンイシガメやアカトンボ、メダカなどの動物、キキョウやオカオグルマなどの植物が見られなくなるなど、生物多様性が失われつつある。

目指すべき里山

多種多様な動植物を育み、人と自然が共生する里山の価値が多くの人々に共有され、保全・管理・利用が継続的に行われることで、生物多様性がもたらす多様な恵みを持続的に享受できる里山。



課題解決に向けた3つの戦略

里山を知る

魅力発信

生物多様性の普及啓発

外来生物・野生鳥獣問題の普及啓発



里山の恵みの体験イベント

生き物観察、農作物の収穫体験、トレイルウォークなど、里山の恵みを体験できるイベントを開催し、参加者が地域住民との交流や里山の魅力を実感するとともに、参加者による里山の魅力の新たな発信につなげる。



外来生物展示センター

外来生物問題の普及啓発に特化した日本で唯一の公的施設である「外来生物展示センター」。ここでは、生きた個体やはく製、標本を見て触れることで外来生物を「感じ」、解説やパネルでその問題を「知る」ことで、今後どうしていくべきかを「考える」ことができる。

里山をまもる

30by30の推進

生物のモニタリング

森林・農地・草地環境の保全

外来生物・野生鳥獣対策



里山OECM(自然共生サイト)

生物多様性豊かな里山を国際目標「30by30」に貢献するOECMエリアとして登録し、そこでは、市民・企業・大学・NPO・行政などのあらゆる主体と連携し、生物モニタリングや環境教育、持続可能な資源利用など様々な実証事業を実施する。

※30by30目標:生物多様性の観点から2030年までに各国の陸と海のそれぞれ30%以上の面積を保全する国際目標
※OECM:農業や水源としての利用などにより、生物多様性が保全されている地域
(Other Effective area-based Conservation Measures)



環境DNA分析によるモニタリング

池の水や森の土壌に含まれるDNAの断片から、そこに生息する生物を識別する環境DNA分析を活用した、効果的かつ効率的な生物モニタリングを行い、希少な動植物などの保全・保護活動やその環境整備を行う。

里山の取り組みをつなぐ・ひろげる

里山資源の経済的な循環

人材育成

活動支援

カーボンニュートラル

保全活動をつなぐ仕組み



持続可能な里山資源の経済的循環

半世紀以上放置された暗い森を整備し、新たに管理された森へ再生させる過程で、発生した間伐材等から高品質な木材や備長炭を製造する。また、耕作放棄された棚田を再生し、水辺の動植物を保全するとともに、無農薬有機肥料の健康な棚田米としてのブランド化を支援する。



補助金による市民活動促進

- ①希少な野生動植物の保護
- ②生態系に悪影響を及ぼす外来種の防除
- ③持続可能な農漁業の推進及び里山・農村地域の活性化
- ④先進的で創造性に富んだ脱炭素に繋がる市民や企業の活動などに対して補助金を支給する。

各戦略に基づき、このほか様々な事業を行っています。